



去年は「千年に一度」と言われる大震災に見舞われたり、これまで経験したことのない大きな事件・事故・自然災害が連鎖的に発生した年でした。保育園でも日常の保育を見直し、災害に対しての対応を再確認した年でもありました。深い傷と大きな課題を背負ったまま「うさぎ」は駆け抜けていきましたが、今年の「たつ」はどんな年になるのでしょうか。

竜と言えば今年話題になったブータンの国旗に大きく描かれています。そして竜について、ご存じの方も多いと思いますが、先日来日したブータン国王ワンチュク陛下は相馬市内の小學生に次のようなメッセージを送ってくれました。

皆さんは竜を見たことがありますか？

私はあります。

皆さんそれぞれの中に竜はいます。

竜は『経験』を食べて大きくなります。

年をおうごとに竜は大きくなるのです。

皆さん、自分の中の竜を大切にしてください。

素敵なメッセージですね。

子どもたちにとっての経験は得てして「様々な経験をさせる」ことに重点を置きがちですが、それ以上に1つ1つの経験を子どもなりにしっかり感じ取り、多様な感情とともに心の中に落とし込むことが大切だと思います。

保育園では今年も、子どもの心に寄り添い、子どもの体験に共感しながら、子どもたちの中の竜を保護者の皆様と一緒に見守っていきたいと思います。



羽村市立東保育園の民営化に伴う運営事業者として、太陽の子保育園が決定しました。平成 25 年 4 月より運営を実施する予定です。

1月の予定

- 6日(金) 避難訓練
- 11日(水) 体育指導[職員]
- 12日(木) 調理保育(くま)
- 13日(金) 調理保育(ぱんだ)
- 16~20日 身体測定
- 18日(水) 発達・心理相談
- 18日(水) 園内職員研修
- 20日(金) お誕生会
- 25日(水) 体育指導(幼児クラス)
- 26日(木) 音楽指導(幼児クラス)
- 26日(木) 保育園継続出張受付 ※うさぎ組 16:00-20:00

2月の予定

- 1日(水) 体育指導[職員]
- 3日(金) 節分の日会
- 9日(木) 避難訓練
- 10日(金) 職員会議
- 15日(水) 体育指導(幼児クラス)
- 15日(水) 園内職員研修
- 20~24日 身体測定
- 22日(水) 調理保育(らいおん)
- 23日(木) 音楽指導(幼児クラス)
- 24日(金) お誕生会
- 29日(水) 体育指導[職員]

2011/12/24

SUN太お楽しみ会

年末のお忙しい中、多数の方がご来場頂き本当にありがとうございます。おかげさまで大勢の方に見守られながら、無事に楽しく終了することが出来ました。

先月アンケートをお配りさせていただきましたので、ご協力の程よろしくお願いします。

子どもたちの発表をホームページで公開しています。ぜひご覧ください。
視聴環境のない方は、保育園1階のパソコンをご利用ください。

SUN太お楽しみ会の写真(カメラマン撮影)は、1月下旬頃より掲示する予定です。お楽しみに!!

言葉の力を伸ばすのは子どもの好奇心

言葉が話せるようになると、子どもの関心は文字に向かいます。このころの子どもは、「なぜ？」でいっぱいです。好奇心の問いかげには、勉強ではなく、楽しさで応えたいものです。

言葉の成長は急がせなくても大丈夫

小学校に入学するまでに、ほとんどの子どもはひらがなの読み書きができるとあって、文字の習得を急ぐお母さんもいます。しかし、子どもは元来、好奇心旺盛なものです。周りが急がせなくても、次第に文字を書いたり、読んだりすることに興味を示すようになります。

文字を教えよう、読み書きさせようと思わず、絵本をいっしょに読んだり、子どもが「自分の名前を書きたい」「この字はなあに？」と言ったときに教えるなど、子どもが楽しく文字を覚える手伝いをしてください。

読み聞かせは「読ませる」ためではない

文字に興味が出てきたら、一緒に絵本を読むのもよいでしょう。ただし、読み聞かせは文字を学習させるためではありません。絵本そのものを、いっしょに楽しみましょう。

- ・絵や言葉の内容とともに、お母さんが読む調子も、言葉の理解を助けます。自分も楽しんで読むと、言葉の雰囲気が出るでしょう
- ・子どもなりに独自のストーリーをつくったり、物語の展開に疑問をもったりします。文字の読み書きにこだわりすぎると、子どもは物語を楽しむ余裕がなくなってしまいます。
- ・お母さんが物語をどんなふうと感じているか、子どもはお母さんの表情からも感じとります。「つまらないけれどためになる(であろう)本」を読むよりも、何でもいろいろ試してみましよう。



読みたい、書きたいを手助けする

子どもの身の回りには、文字がたくさんあります。自分なりに文字の読み方を推理したり、読めない文字を知る楽しさを手助けしましょう。

- ・自分の名前や好きなものの文字を読んだり、保育園で自分の名前を書いたりなど、子どもが自発的に文字を学ぶきっかけはたくさんあります。
- ・「興味を持ったときが教え時」というのは、この時期にはまだもう少し待って。時にはともに考え、発見の喜び、達成感を存分に味わわせてあげましょう。

テレビは言葉の力を伸ばすか？

言葉の洪水に巻き込まれる

言葉を早く、たくさん覚えさせようと、二歳くらいの子もばかりか生まれたばかりの赤ちゃんにまでテレビを見せるお母さんが増えています。

たしかに、たくさん言葉に触れば、赤ちゃんが知っている言葉の数は増えるかもしれませぬ。

しかし、言葉を使う力とテレビの効果は比例しません。言葉はあくまでも対話に使うもの。語りかけるだけで話を聞いてくれないテレビには、赤ちゃんは話しかけようという気は起こらないはず。

テレビばかり見ていて周囲との対話が少ない環境で育った子どもが、言葉を話そうとしなかったり、会話ができないなどで、診察に訪れるケースも決して少なくありません。

時々、時間を決めて楽しんで

教育目的ではなくても、テレビとのつき合い方はむずかしいものです。

家事、仕事に忙しいときにはテレビに子守を頼みたいというときも多々あるでしょう。とはいえ、テレビを無制限に見せていると、子どもがテレビの前から離れなくなってしまう場合もあります。

子どもが小さいときには見る番組をあらかじめ決めておく、ある程度大きくなったら「一週間に〇時間」と決めて、その内訳を自分で配分させるなど、テレビとの上手なつき合い方を考えていきたいものです。また、子どもがテレビと上手につき合えるようになるためには、周囲の大人が、テレビとのつき合い方を見直す必要があります。



ちねめ